

釧路工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	現代社会B	
科目基礎情報							
科目番号	0007			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	情報工学分野			対象学年	1		
開設期	通年			週時間数	1		
教科書/教材	東京書籍 『現代社会』						
担当教員	山内 一美,細見 佳子						
到達目標							
常に変容し続ける現代社会の様相についての知識と理解を深め、社会に対峙するための判断力の基礎を培い、主体的に社会を構成する人間として必要な資質を自分で育てていけるようになる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
		政治的・経済的視点を思考のツールとして自身に内在化し、社会を理解する道具として使いこなすことができる。		政治的・経済的視点の概要を理解し、社会を知るための切り口のひとつとして使えることに気づくことができる。		政治・経済的視点をもって社会を見ることができない。	
		複合的・全体的に物事を見る思考力を身に付け、それを自身の力として世界や社会に対峙し、自分のあり方生き方を生涯にわたり追求していける。		社会には様々な視点があることを理解し、複合的に自身の身の周りの事象を捉えることができる。		人間社会の多様性を理解できない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 A							
教育方法等							
概要	社会の一員として自覚的に、かつ主体的に生きていくための、基本的な知識と健全な判断力を身につける。						
授業の進め方・方法	合否判定： 定期試験（80%） + 課題学習（20%） ≧ 60点 合否判定点 = 最終評価点 不合格者については、再試験または課題学習の評価が60点以上であれば合格とする。						
注意点							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	経済の三主体		経済の三主体について理解できる。		
		2週	現代の企業と市場（1）		市場メカニズムについて理解できる。		
		3週	現代の企業と市場（2）		同上		
		4週	経済をはかる・とらえる（1）		同上		
		5週	経済をはかる・とらえる（2）		同上		
		6週	政府の経済活動（1）		政府が果たしている経済的役割について理解できる。		
		7週	政府の経済活動（2）		同上		
		8週	租税と社会（1）		同上		
	2ndQ	9週	租税と社会（2）		同上		
		10週	租税と社会（3）		同上		
		11週	金融のしくみとはたらき（1）		金融機能の役割について理解できる。		
		12週	金融のしくみとはたらき（2）		同上		
		13週	金融のしくみとはたらき（3）		同上		
		14週	国際経済のなかの日本（1）		国際経済の情勢について理解できる。		
		15週	国際経済のなかの日本（2）		同上		
		16週	前期末試験				
後期	3rdQ	1週	民主主義とはなにか		民主制の意義を理解できる。		
		2週	日本国憲法の基本原則（1）		日本国憲法の基本原則を理解できる。		
		3週	日本国憲法の基本原則（2）		同上		
		4週	日本国憲法の基本原則（3）		同上		
		5週	日本国憲法の基本原則（4）		同上		
		6週	国会・内閣・裁判所（1）		権力分立について理解できる。		
		7週	国会・内閣・裁判所（2）		同上		
		8週	国会・内閣・裁判所（3）		同上		
	4thQ	9週	国会・内閣・裁判所（4）		同上		
		10週	選挙制度（1）		民主制を維持するための仕組みを理解できる。		
		11週	選挙制度（2）		同上		
		12週	労働問題		日本が抱える社会問題を理解できる。		
		13週	社会保障制度		同上		
		14週	現代の国民生活（1）		同上		
		15週	現代の国民生活（2）		同上		
		16週	後期末試験				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週

基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民的分野	自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	2		
			現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	2		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0